

第17回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成25年3月8日(金) 18時30分～20時45分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 15名 *欠席 7名 山崎副会長、高野委員、酒井委員、児玉委員、山崎委員、
中村委員(代理出席:諸橋氏)、多田委員(代理出席:片岡氏)
- (2) 事務局 6名 *教育委員会企画課 高須課長、池田主幹、国方課長補佐、小口主査、
山崎主査補、安井主査補
- (3) 傍聴者 4名

4 報告・議題

- (1) 【報 告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて
- (2) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
- (3) 【議題2】 次回開催日時・場所
- (4) 【議題3】 その他

5 会議資料

- 資料1: 第14回・第15回・第16回千城台地区学校適正配置地元代表協議会(概要)および
会長・副会長提案
- 資料2: 小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション(現行の学級編制の場合)
- 資料3: 小学校の統合・現行学区での統合シミュレーション(35人学級編制の場合)
- 資料4: 千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況
- 資料5: 千城台地区小・中学校の施設概要
- 資料6: 中学校の生徒数推計・統合シミュレーション
- 別紙1: 協議の進め方、平成27年4月統合の想定スケジュール
- 別紙2: シミュレーション2番・5番の比較
- 別紙3: 現行学区での児童数推計

6 議事の概要

- (1) 【報 告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて
事務局が前回協議会での協議内容について説明した後、それ以降の各学校や自治会等で行われた話し合いや活動について報告し、確認した。
- (2) 【議題1】 千城台地区小学校の適正配置について
事務局が「協議の進め方、平成27年4月統合の想定スケジュール」「シミュレーション2番・5番の比較」「現行学区での児童数推計」について説明を行った後、協議を行った。
その結果、次回も引き続き小学校の統合協議を行うこととし、中学校の統合協議も含めて進めていくことが確認された。

(3) 【議題2】 次回開催日時・場所について

次回協議会は5月中に開催することが確認され、日時等の詳細については、会長・副会長と相談して改めて各委員に通知することとした。

(4) 【議題3】 その他

氏家会長から「協議会だより第4号」の作成について提案があった。4月中に全戸配布すること、文案については会長・副会長に一任され確認された。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶 (氏家会長)

年度末の3月に入り、協議会委員の皆さんも様々な立場で忙しい時期と察する。

前回協議会では、小学校の統合シミュレーションにおいて2番と5番の2案を検討し、本日も引き続き「中学校の統合」協議を含めて協議することになっている。いろいろな面から考えて協議をお願いしたい。

(2) 報告

報告 前回協議会およびそれ以降の動きについて

〈菅原議長〉 「前回協議会およびそれ以降の動き」について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 「前回の協議」と「それ以降の動き等」に分けて報告する。まず、「前回の協議」については資料1をご覧いただきたい。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

(前回協議された概要)

○会長・副会長から「現行学区でのシミュレーション」のうち、2番と5番の2案の再提案があった。

○協議の結果、引き続き小学校の統合協議を行うこととし、「5番のシミュレーションについて、事務局より具体的な説明を行うこと」「中学校の統合について、各団体で話し合ってくること」が確認された。

次に、「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○事務局が出向いての説明・意見交換会 3月1日(金) 東小PTA対象

○各校での聞き取り 3月1日(金) 東小

4日(月) 北小

5日(火) 西小・南小

6日(水) 旭小

○北小の特別支援学級保護者との意見交換 3月19日(火) 開催予定

〈菅原議長〉 各校の聞き取り調査について、氏家会長から補足説明があればお願いします。

〈氏家会長〉 現在、小規模校化が進んでいる中で、学校として課題と感じていること等について聞き取り調査をした。その結果、「(どの学校も) 教育課程の中で縦割り活動など工夫しながら取り組んでいる。」「概ね各学年2～3学級で、1学級25～30名程度の規模だと良いと考えている。」「体育館や校庭などの学校体育施設については、地域で幅広く利用されている」旨が挙げられた。今後も、協議の中で説明していきたい。

〈菅原議長〉 既に議事要旨も確認・決定されているので「特に意見なし」でよろしいか。

〈一同〉 異議なし。

(3) 協 議

議題 (1) 千城台地区小学校の適正配置について

〈菅原議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 前回協議会で委員から要望された資料である、別紙1「協議の進め方、平成27年4月統合の想定スケジュール」、別紙2「シミュレーション2番・5番の比較」、別紙3「現行学区での児童数推計」について説明。

＊資料2～6については、前回同様の資料であるので説明は省略。

〈菅原議長〉 資料について、事務局より説明があったが、質問はあるか。

〈一同〉 特になし。

〈菅原議長〉 それでは、各団体で「中学校の統合について」および「小学校のシミュレーションについて」話し合ってきていると思うので、それを踏まえてご意見ををお願いします。

〈笹川委員〉 南中では、全生徒に対してアンケートを行った。

アンケート内容は「小学校のシミュレーションの2番と5番について」と「中学校の統合について」である。基本的に保護者対象であるが、生徒が記入しても良いこととした。結果としては40名から回答があった。小学校統合についてはシミュレーション2番・5番ともに賛成、反対とさまざまな意見があった。中学校の統合については賛成より反対の意見が若干多かった。生徒からも反対という意見が出た。保護者からは、「統合した場合、南中の生徒は特別支援学級と今まで接していないので心配である」という意見が出た。できれば保護者会役員が特別支援学級を見学したり、学校同士で交流したりしながら理解を深めていけると良いということである。4月にも再度アンケートをとる予定なので、次回協議会で報告したい。

〈石原委員〉 生徒が「中学校の統合は反対」という主な理由は何か。

〈笹川委員〉 現在、各学年3～4クラスの規模であり、妥当であると考えているためである。

〈佐々木委員〉 部活動を含め、その他に何か意見が出ているか。

〈笹川委員〉 統合に反対の意見としては、「人数が増えることに対して競争が激しくなり心配である」という意見が出ている。逆に、統合に賛成の意見としては、「切磋琢磨する中で活性化するのではないか」という意見が出ている。

〈氏家会長〉 生徒が「統合に反対」という理由は、規模の他に何か理由があるのか。

〈笹川委員〉 「統合に反対」という意見しか書かれていなかったものが多かった。次回のアンケートではその理由についても聞き出せたらと思う。

〈氏家会長〉 統合に賛成の意見の理由をもう少し説明してほしい。

〈笹川委員〉 「部活動の数が増え、活性化する」「生徒数が減っている現状を考えると、仕方ないのではないか」「専門の先生が配置されて良い」などが出ている。

〈來住委員〉 3月5日(火)に役員会を行った。今までは、小学校の統合にはあまり関心がなく報告だけで終わったが、今回は中学校の統合についても聞いたので、長時間の協議となった。その結果が次のとおりである。

○小学校のシミュレーションについて

5番が良いが74%となった。しかし、意見として、学区外の小倉町から西小や西中に通ってくる子どもが増えており、推計も変わってくるのではないかという意見がある。

○中学校の統合については、基本的には反対となった。

どうしても統合する場合、小・中学校同時期の統合での賛成が半分を下回った。

その理由として、「西中も南中も各学年3学級ずつあるが、統合した場合は6学級近くになり、そんなに規模が大きくなって良い。」「生徒同士のトラブルが増える。」「様々な問題を抱えている生徒にとっては、2校のままの方が逃げ道となって良い。」等が挙げられた。

○教育委員会への質問

・小規模校化がかなり進んでいる更科小や坂月小に関しては、なぜ千城台地区より先に適正配置を進めないのか。伝統があるからなのか。

・要望書については、子どもたちのためにあるが、どの程度まで要望事項を出して良いのか。

○その他の意見

・特別支援学級について、北小での6年間、西中での3年間の関わりの中で生徒たちに理解されている。統合した場合、南中の生徒に戸惑いが生じるのではないかと。

統合前の準備期間の中で、十分に交流していく必要がある。

〈土屋委員〉 西中の新1年生について、四街道市の吉岡小から通う生徒が増えたと聞いている。事務局は何か把握しているのか。

〈事務局〉 例年5～6名程度、吉岡小から西中に入学してくる。来年度は26名の入学予定となっている。理由は不明である。

〈氏家会長〉 理由ははっきりしないのか。

〈事務局〉 区域外就学承認地域となっており、申請すれば西中に通えることになっている。従来と通学距離が変わったわけではないので他に理由があると思うが、それ以上のことは不明である。

〈栗山委員〉 関連して、学区外通学申請について、南小のエリアから東小に通う人が多くなっている。統合した場合、学区外申請は認めるのか。

〈事務局〉 千葉市は原則として学区制であり、統合後も学区制は継続する。学区外通学申請については市共通で「承認事由」が決まっており、その事由に該当することが条件である。無条件・無制限ではない。

〈栗山委員〉 兄弟姉妹がいる場合は、上の子（兄姉）に合わせて学区外通学ができるのか。

〈事務局〉 ご指摘の事由も1つである。個々の保護者の申請に対応しながら進めていることはご理解いただきたい。ここで、先ほどの来住委員から出された質問についてお答えする。

・更科小はとても広い学区である。千城台地区に入った場合、通学距離が4km以上となる。坂月小は加曾利中学区に属しており、加曾利中学校区内には複数の小学校があり、町内自治会連絡協議会や青少年育成委員会の所属が違うなど、千城台地区の枠を超えて協議する必要があるが出てくる。

・統合の要望書については、内容や記述は地区によって様々である。次回協議会以降先行地区の例を示していきたい。

・跡施設活用については、統合が決まってから、話し合う順序になる。

跡施設については、平成24年1月に策定された千葉市資産経営基本方針に則って、財政局資産経営部資産経営課が所管となり、中長期的な視点から人口・世代構成や、周辺施設の状況、地元住民における跡施設活用の要望などを総合的に勘案し決定していく予定である。先行地区の真砂地区については既に決定しており、現在、高洲・

高浜地区・磯辺地区の跡施設について、住民アンケートや有識者による検討会等を行いながら、利用方針の策定を進めているところである。

- 〈石原委員〉 花見川地区の跡施設についても同様に決まったのか。
- 〈事務局〉 花見川地区の跡施設活用については、現在の検討組織ができる前であり、他の所管で検討されている。
- 〈石原委員〉 現在の検討組織で跡施設活用が具体的に決まったものがあれば紹介いただきたい。
- 〈事務局〉 真砂地区では、旧真砂一小はコミュニティセンターや特別養護老人ホーム等、旧真砂二小では高等特別支援学校、日本語指導通級教室などの教育施設となり、旧真砂四小は売却する予定となっている。
- 〈佐々木委員〉 北小と西中には特別支援学級があり、交流が行われているようである。何か決まった取り組みなどがあるのか。
- 〈來住委員〉 特にない。
- 〈佐々木委員〉 西中に通っている東小卒業生が馴染めないと聞いているので、東小としても何か取り組みれば良いと思ひ、聞いてみた。
- 〈來住委員〉 北小は、小学校の時から特別支援学級と交流する中で、理解し合ってきていると考える。
- 〈栗山委員〉 低学年の時から関わっていくことが大切ではないか。
- 〈來住委員〉 交流がない場合は、学校のカリキュラムに入れて交流していくべきであると思う。
- 〈鈴木委員〉 中学校の統合については新たな課題が出ている。小学校の統合協議については2年近くじっくり話し合ってきている。円滑に進めるには、小学校の統合について決めてから中学校の統合について話し合っていく流れの方がよいのではないか。
- 〈氏家会長〉 ご指摘のように、小学校の統合協議は様々な視点から話し合ってきている。中学校の統合については、小学校の統合の協議に伴って浮上してきた経緯ではあるが、どうしても解決しないと決まらないため、本日話し合っていることをご理解いただきたい。
- 〈事務局〉 小学校の代表にも意見集約してきたと思うので、ご意見を伺いたい。
- 〈大和久委員〉 西小としては、中学校の統合についても「数合わせの統合」とせずに、小中連携ができるようお願いしたい。まだ「2つの中学校をそのまま残すのか、1つに統合するのか」は十分には話し合っていない。小中連携のしやすさを考えると、2つの中学校をそのまま残すのが良いかも知れないが、持ち帰って検討していきたい。
- 〈佐々木委員〉 小学校の統合シミュレーション2番だと2つの中学校がそのままでも良いが、5番だと1つに統合した方が良い。
- 〈栗山委員〉 南小はアンケートを以前にとっているので意見は変わらない。中学校の統合に関わるのは現在の小学生であるので、保護者も考えているはずである。
- 〈鈴木委員〉 小学校の保護者は中学校の統合についても考えていると思う。
- 〈栗山委員〉 「単学級をつくらない」「学区のねじれを解消する」の2点について、ずっと保護者には話をしてきている。
- 〈鈴木委員〉 中学校の統合については小学校の統合と関連するが、区分して話し合っていないと難しいのではないか。
- 〈奥田委員〉 「中学校はどうするのか」という意見は高学年の保護者からも出ている。部活動の人数が少なく心配しており、小学校と同時に統合したほうが良いという意見がある。子どもたちにとって、統合を2回経験するのは大変である。特別支援学級との交流も考えると、ある程度の準備期間を十分とって、統合を進めていくべきであるとする。

- 〈大澤委員〉 学校適正配置は地域と切り離しては考えられない。学校施設は地域にとっても財産である。児童・生徒推計は確定したものではないので、一時的な学級数にとらわれずに、視野を広げて考えていくと良い。個人的には、中学校の統合については、現状のままが良いと思う。青少年育成委員会の活動を通して考えると、中学校は2つ残した方がバランスが良い。子どもたちを見守る活動は大変重要であり、生徒指導面からも2校を残した方が落ち着いていると思う。小学校については、3校を残すシミュレーション2番が良いと考える。また、特別支援学級は考慮していくべきである。現在、北小は交通手段的にも便利である。以前、特別支援学級の子が乗り越して御成台まで行ってしまったことがあり、御成街道を若松方面に歩いていたところを特別支援学級の保護者が発見して大事に至らなかったことがあった。そういうことから統合場所について考慮していきたい。子どもが減ることを心配するよりも「魅力ある街づくり」にして増やすことを考えていきたい。
- 〈鶴岡委員〉 別紙資料2の検討の視点にあるように、「単学級の発生」「中学校の統合」をどうするかということ協議していることを確認したい。単学級については、いじめなど人間関係がこじれた場合、解決しにくい。教員としても複数学級あった方が良い。中学校については、小規模校化が進み、子どもが希望する部活動を開設することができない状況である。部活動については、生徒数や教員の経験など学校の内情から決まっていく。より良い教育環境にするには、統合はやむを得ないと思う。西中の特別支援学級は子どもたちの能力が高く、先日参観させていただいた時に「大地讃頌」を混声四部合唱で張り切って歌っている姿にとっても感動した。特別支援学級との交流は、小学校低学年からの方が良い。関わり合う中で成長する。
- 〈土屋委員〉 現実的に考えた場合、小学校のシミュレーション2番の方がやりやすいと考える。前回協議会で、教育委員会にプレゼンをしてほしいと提案したのは、具体的に2番だとかこういうことが考えられる、5番だとかいう取り組みができるというような説明をしてほしいという意図があった。中学校については、現在は部活動の人数が偏っている。統合すれば解消できると良いがどうなのか。四街道市の吉岡小からも通ってくるなど、この千城台地区の地域性をよく考えて進めていただきたい。
- 〈栗山委員〉 昨年4月から一年間、「統合する」という認識で、子どもたちの明るい未来に向けて取り組んできた。「単学級は発生させない」「学区のねじれは解消する」という方向性で進んできた。このシミュレーションで、子どもたちにプラスになるという認識で進めていきたい。
- 〈土屋委員〉 小学校の適正配置は必要であることは合意を得たが、最終的には「しない」となることもある。
- 〈栗山委員〉 子どもを持つ親として、統合を進める方向で保護者に一生懸命に説明してきた。しかし、アンケートをとっても18パーセントの回収率である。そういう面からも、統合して活性化してより良い教育環境にしてもらいたいと思う。
- 〈片岡氏〉 本日は代理として2回目の出席となる。孫が南小に通っているが、統合して切磋琢磨できる環境を望む。個人的にはシミュレーション2番が良いと思う。防災拠点を考えるとバランスが良い。
- 〈谷野委員〉 早い段階から「3小・2中が良い」と考えていた。シミュレーションとしては2番が良いが、話し合って「単学級を発生させない」ということであれば、5番でも良い。

- 〈加瀬委員〉 小学校の統合シミュレーション2番・5番をについて、学校規模や通学距離、学校施設、児童推計等の面から検討してみた。
2番のシミュレーションでは単学級が発生してしまう。子どもたちのことを考えると、人数が多い中で学んでいくことが良い。通学距離や学校施設の面からは問題ない。
5番のシミュレーションの方がベストでないかと思う。北小・西小・南小の3校統合の場合、西小ではなく西中を活用することにより、通学距離や学校施設等では問題がなくなる。東小と旭小の2校統合では、校庭面積が広い旭小を統合場所とすると良い。中学校は1つに統合し、南中を統合場所とすると良い。学校施設が広く、夜間照明もある。このようなことから、5番のシミュレーションが良いと考える。
- 〈諸橋氏〉 小学校のシミュレーションでは、子どもたちのことを考えると5番となり、自治会など地域として考えると2番となる。中学校については2番だと2校のまま存続し、5番だと1つに統合するしかないと思う。
- 〈氏家会長〉 全員からひと通り意見を聞いた。意見が分かれており、現段階でまとめるのが難しい。どちらにしても「中学校の統合協議」をしないと、決められないことは明白である。
- 〈栗山委員〉 「(中学校の)学区のねじれ」は解消しなくて良いのか。
- 〈笹川委員〉 南中の保護者からも「学区のねじれは解消してほしい」という意見が出ている。
- 〈栗山委員〉 南小も同じである。2番のシミュレーションでは「学区のねじれ」が解消できない。
- 〈石原委員〉 「学区のねじれ」を解消することは検討事項に入っている。
小学校については、以前「東小の一部学区を北小区に移す」シミュレーションを検討したが、その際には、通学距離等の理由から御成台地区の意見交換の中で反対意見が出たこともあって現行学区で進めることになっている。「中学校区のねじれ」は解消すべきであると考えている。
- 〈氏家会長〉 総合的に判断して決めていくことが大切であると思う。
- 〈佐々木委員〉 その提案が、この別紙資料2である。
- 〈菅原議長〉 時間が迫っているので、各団体でまとめてきたことがあれば報告していただきたい。
- 〈栗山委員〉 南小では、アンケートをとった。120の家庭数中、21の回答があり、18%と少なかった。シミュレーション2番では「平成30年に単学級が発生してしまう」「13学級未満となり専科教員が配置されない」などの意見があった。
シミュレーション5番では、「学校の数が減ることにより、通学距離が増える」「学区外通学申請も増えるのでないか」「規模が大きくなりすぎではないか」「モノレール通りを渡ることは心配である」などの意見があった。
- 〈菅原議長〉 本日の協議では、小学校の統合協議を進めるには「中学校の統合協議」が必須であることが改めて確認された。次回も「中学校の統合」継続協議することではいかがか。
事務局から補足はあるか。
- 〈事務局〉 スケジュールで示したように「27年4月統合」ということになると、交流期間や準備期間を考えると「25年9月までに統合の要望書提出」が目安となる。
次回資料として、事務局が示す資料があれば要望いただきたい。
- 〈栗山委員〉 学区外通学している人数がわかる資料を示してほしい。
- 〈事務局〉 新1年生～新6年生についての人数を示したい。
- 〈氏家会長〉 平成31年度の児童推計は出せるのか。
- 〈事務局〉 5月1日現在の住民基本台帳を基に算出した数字を提示したい。
- 〈菅原議長〉 次回協議は、本日確認された内容・資料で行う。

議題（２）次回の開催日時と場所について

- 〈菅原議長〉 協議（２）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いする。
- 〈事務局〉 各団体での役員改選があるので、改選後の６月頃の開催とし、詳細について会長・副会長と相談の上、改めて各委員にお知らせするということがか。
- 〈栗山委員〉 もう少し早めに開催した方がよい。
- 〈諸橋氏〉 自治会では４月には役員改選がほぼ終わっており、５月開催でも大丈夫である。
- 〈事務局〉 児童・生徒推計は、５月１日現在の住民基本台帳を基に算出するのでまとめるのに時間がかかるが、５月中には開催するということがか。
- 〈一同〉 異議なし。（了承）
- 〈菅原議長〉 次回は５月中に開催することとし、詳細は改めて各委員に通知する。

議題（３）その他

- 〈氏家会長〉 住民への周知として、「協議会だより（第４号）」を作成し、４月に学校を通じて保護者へ、会長会を通じて千城台地区全戸に配布したいと考える。内容については、会長・副会長に一任いただきたいがよろしいか。
- 〈一同〉 異議なし。（了承）

（４）連絡

- ・本日の議事要旨（案）を作成し郵送するので、確認をお願いする。
- ・次回協議会は５月中に開催することとし、会長・副会長と相談し、改めて各委員に通知する。
- ・委員が変わる際には引き継ぎをしっかりと行っていただきたい。その際に、事務局による説明・意見交換の希望があれば声をかけていただきたい。

（５）教育委員会挨拶

今年度一年間の皆様の真摯なご協議に対し、教育委員会を代表して御礼を申し上げる。
今年度は計６回協議会を開催したが、氏家会長、菅原副会長、山崎副会長には会の進行をはじめとして大変ご尽力いただいた。また、各委員においては、各団体に協議内容を持ち帰り、報告・意見集約し、協議会において代表として述べていただいた。その結果、様々な角度からの議論を行うことができたと思っている。委員の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

（６）会長挨拶（氏家会長）

各委員から意見や報告を丁寧に述べていただき、充実した協議となった。
概ね意見が出尽くした感があるが、引き続き十分な協議を行って、協議会として意見を集約して合意していく、共通理解しながら進めていくというスタンスで進めたい。
なお、委員交代がある団体は引き継ぎをしっかりとお願いしたい。今年度のご協力に感謝する。